

あていねらん願や 夜に渡海(とうけ) 星ないさ  
かぬしゃまの笛の音 満天の星よ  
さんざめく天河 星晴りいてい流り船  
かぬしゃまの笛の音 満天の星よ

天響む星々や島照らし かながなとう美ら節や里照らし  
我ん心底や満天ぬ星よ

島横なてい天河 はいはていてい流り船  
ぬくぬくとう思いや 満天の星よ

意識「nada nada：パーシャクラブより」

あてどもない願いは 夜を渡り 星になるかもしれない  
愛しいあの人の笛の音がする 満天の星の下に  
さんざめく天の川 星晴れた夜へ 流れ船を浮かべると  
愛しいあの人の笛の音が聞こえてくる 満天の星の中で

天に響く星の光は島を照らし出し 愛おしい清らかなメロディーは思い人を照らし出す  
私の心の底に広がるのは満天の星

島に並ぶように傾いてきた天の川 二人を乗せた船も流れ着いてしまった  
まだ余韻の残る思いは 満天の星のよう